



新聞を使った課題解決型学習(PBL)に取り組んでいる仁愛大学の学生が10日、越前市の同大駅前サテライトで、福井新聞社のNIE(教育に新聞を)担当者から出前授業を受けた。今後の取材活動や記事執筆に向けて、取材方法や原稿の書き方などを学んだ。

授業を受けたのは子ども教育学科の大野木裕明教授のゼミ生9人。福井新聞社みんなの新聞部の藪内弘昌部長が講師を務

取材のこつ、書き方学ぶ

本紙記者授業 仁愛大ゼミ生9人



めた。藪内部長は記事について「何を伝えたいかで書く内容、見出し、写真が

て「何を伝えたいかで書変わってくる」と説明。

「桃太郎」の昔話を題材に「どこに焦点を当てるか考えることが大切」と訴えた。取材先選びや、取材で話を聞くこつについてもアドバイスした。

今後、ゼミ生は各自の関心がある分野についてフィールドワークを行い、記事などにまとめる予定。

砂子怜菜さん(3年)は「取材のこつとして、相手に共感しながら聞くという話が聞ける、という話が印象的だった。自分でもやってみたい」と話していた。(大西崇弘)

新聞について学ぶ仁愛大生10日、越前市の同大駅前サテライト